

公益財団法人日本骨髓バンク 通常理事会 議事録

1 日 時 2025 年(令和 7 年)3 月 14 日(金) 17 時 10 分から 18 時 00 分

2 開催方法 WEB会議(本会議を WEB 開催することに関して全理事の同意を得た)

3 定 足 数 理事現在数 11 名中、出席 10 名

(1)出席理事 : 10 名(以下、敬称略)

岡本 真一郎(理事長)、佐藤 敏信(副理事長)、日野 雅之(副理事長)、
浅野 史郎(業務執行理事)、石丸 文彦(理事)、大西 達人(理事)、
瀬戸 愛花(理事)、高橋 聡(理事)、橋本 明子(理事)、福田 隆浩(理事)

注)定款第 46 条に規定する理事現在数の過半数を充足し、本理事会は成立した。

(2)欠席理事 : 1 名

鈴木 利治(理事)、

(3)出席監事 : 2 名

沓沢 一晃(監事)、藤井 美千子(監事)

(4)陪 席 者 : 3 名

細川 亜希子(厚生労働省健康・生活衛生局難病対策課移植医療対策推進室室長補佐)

横田 友子(厚生労働省健康・生活衛生局難病対策課移植医療対策推進室係長)

東 史啓(日本赤十字社血液事業本部技術部造血幹細胞事業管理課課長)

(5)事 務 局 : 6 名

小川 みどり(事務局長兼ドナーコーディネート部長兼医療情報部長)

田中 正太郎(総務部長)、関 由夏(移植調整部長)、水口 詞代(広報渉外部長)、

鈴木 慶太(広報渉外部TL)、荒井 茂(総務部TL)

4 開 会

岡本理事長が臨時理事会の開会を宣言した。理事会運営規則第 3 条に基づき、事務局の出席が認められた。

5 議事録署名人の選出

定款第 51 条第 2 項により出席した理事長及び監事が議事録の署名にあたりとされた。

〔 議 事 〕

6 審議事項

第1号議案 : 令和 7 年度事業計画及び予算について

第2号議案 : 就業規程等の改正について

第3号議案 : 組織規程の改正について

7 報告事項

- (1) 寄付金報告
- (2) 採取件数・患者登録数報告
- (3) 調整医師新規申請の報告
- (4) スワブトライアル 2.5 の実施について

8 審議事項の経過概要と結果(敬称略)

(1) 第1号議案：令和7年度事業計画及び予算について

令和7年度事業計画について … 小川事務局長

前回業務執行会議から追加・変更となった部分について説明。

基本方針のうち3つ目を「どの患者も最適タイミングで移植可能なコーディネート体制を実現する」に変更。

オンラインドナー登録導入を目指し準備を進めているが、上半期にHLA検査の検証(トライアル2.5)が加わった。着実に進めた上で、下半期に本番環境でトライアル3の実施を目指す。

スワブ導入ができた場合、ドナーリクルート体制が大きく変わるため、その構築に向け、学生の協力が重要となる。後輩に引き継げる体制を広げていくため、同じ大学の後輩に引き継ぐことはもちろん、大学の枠組みを越えて他大学にも広げていくということで、今少しずつ進め始めている。

PBSCTは、バンク全体の33%と少ないが、BMTに比べてドナーの提供後の回復が早いこと、持続型G-CSF製剤使用の場合はドナーの入院日数が短く、ドナー負担の軽減に繋がることを踏まえ、PBSCT普及の方針を全国の医師に働きかける。

期間短縮について、できる限り全ドナーが地区コーディネート開始から2週間以内にドナー確認検査を実施できるようにすることを目指す。現在22日のところを2週間にしたい。そのために、開業医に働きかけるなどして、確認検査を実際に引き受けられる調整医師を増やすという目標を掲げる。

＜福田＞「どの患者も最適なタイミング」では若干表現が曖昧になってしまう部分がある。

1、2ヶ月以内の移植を急ぐ患者と、3、4か月後この時期にできればよい患者がいる。それぞれに応じたコーディネート期間の目標を作るのが理想的ではある。以前の迅速コースのように、急ぐ人とそれほどではない人は分けた上で、コーディネート期間の短縮を目指すというのが、本来は理想的。実際に切り分けるのは、難しい部分があるかと思うが。

ケースによって移植希望時期は異なるため、今回の表現としてはこれでいいかと思う。私の意見としては、急ぐ、急がないで分けるのがベターと思っている。

今後強調してアナウンスすべきこととして、HLA完全一致でないとドナーとして選べないという担当医側の意見があり、HLA不一致ドナーの検索をしない施設も多い。しかし血縁ハプロ移植でGVHD抑制効果が高いPTCYが、バンクのマッチでも使えるようになった。バンクの不一致ドナーも含めて広範囲に探し、不一致が多ければPTCYで安全にやるという選択肢も増えてくるので、ドナー検索自体が根本から大きく変わってくるということを移植医の先生とディスカッションしながら広げていくことで、より早い移植を目指せるのではないかと考えている。

以下、コーディネート期間短縮についての事前アンケート結果を紹介。

＜日野＞ 早すぎて困るということはなく、より早期にコーディネートができればありがたい。期間短縮に向けた取り組みは依然として重要。多くの患者は患者登録から 2、3 ヶ月だが、急ぐ場合はやはり患者登録から 1、2 ヶ月。

急ぐ場合には、ドナーの最終同意と健診などを同時に行えるようにしてはどうか。ドナーの確認検査を省略し、いきなり選定から入る。海外では行っているバンクもある。

患者登録してから NGS 法で HLA 検査するが、結果が出るまで 3 週間かかる。その分コーディネートが遅くなるので、事前に病院にスピッツを置いておくことができないか。（←SRL に確認したが、バーコード管理上不可との回答）。

＜高橋＞ 確認検査までの期間短縮と、これまで行ってきたコーディネート期間短縮がわかりにくい。

＜小川＞ 骨髄バンクとして取り組めるところが、確認検査の結果を早く出すというところまで。その後の行程は、患者側がいつドナー選定するか、患者の希望時期がいつか、採取施設が受け入れてくれるか等バンクの努力以外のところに大きな要因がある。バンクの責務として、確認検査までを短縮しなくてはならない。

＜高橋＞ 急性白血病などの化療をしていれば、3 ヶ月以内に移植できればよいというケースがあるが、一方で、診断時に登録する例は必ずしも多くなく、治療経過や途中で判明したゲノムの結果などを見て登録する場合もある。その場合はさらに早急な移植が望まれる。MDS でも、できるだけ早期の移植が望ましいということもある。しかし、登録後 1 ヶ月以内での移植を目指すというのは非現実的かと思う。

＜大西＞ 急ぐ場合は 1 ヶ月かそれよりも短い。登録から 3 ヶ月程度の移植でも問題ない場合もある。患者ごとに様々。期間短縮できる状況を作っておけば、そこから長くすることは可能なので、そうした方がいい。通常骨髄バンクには 3 ヶ月先での移植で問題ない患者しか登録していない。期間短縮が可能になれば、バンクでの移植のチャンスが出てくる。

ドナーを最初に検索した際の検索画面に、ドナー理由で中止等の情報があるが、さらに中止の時期について、最近なのかかなり前なのか、も入れて欲しい。入れた方がよりコーディネートが短縮できるのではないか。

令和 7 年度予算について … 田中総務部長

収益の方が約 15 億 6100 万円。支出の方が約 15 億 8500 万円、差し引きで約 2370 万円の赤字予算と前回説明した。赤字の額が大きく見えるが、実際は減価償却費が大きく、実際の資金繰りには問題ない。収入面と支出面の要点についても説明したところである。先月からの変更点も、また前回以降特に質問や意見はない。

審議の結果、第 1 号議案は全会一致で可決承認された。

(2) 第 2 号議案：就業規程等の改正について … 田中総務部長

昨年 5 月に育児介護休業法が改正され、今年 4 月から一部施行される。これに伴い、当法

人の就業規程のうち、子の看護休暇について、従来小学校に入るまでであったものを、小学校 3 年生まで特別休暇を取得できるように改正する。

職員が休日出勤した場合の振替休日の取得について、現在 4 週間以内に振替休日を取得するとなっているものを、原則同一週ないしは次の週の 2 週間以内には必ず取得すると改正。

正職員の就業規程の他に、契約職員と臨時職員用の就業規則があり、先ほどの子の看護休暇と振替休日の変更についてこちらにも反映させる。

契約職員等の有期雇用者に関し、5 年以上雇用すると、法律上無期契約へ転換されるということになっているが、そのようになった職員に対し、現状定年退職についての定めがない。そのため、無期契約に転換したものについても、他の職員と同年齢での定年退職について規定。

いずれも 4 月 1 日付での施行となる。

審議の結果、第 2 号議案は賛成多数で可決承認された。

(3)第3号議案：組織規程の改正について … 田中総務部長

現在広報渉外部に設置されている寄付担当では、寄付の受け入れ及び寄付募集に関する業務が行われているが、寄付金の受け入れ事務作業、管理システムへの情報入力、領収書発行等、受け入れ後の事務について、総務部管轄としたい。理由としては、該当業務は経理事務との連携が必要であることと、人員配置の適正化。

なお、寄付金の募集、各種募金活動の企画及び実施に関する、いわゆる寄付を集めるための企画や活動については、引き続き広報渉外部で所管する。

業務分掌の細則において、各部の中にチームを定め、そのチームについての業務分掌を定めているが、これも併せて改正する。まずは総務部内に、現在総務・企画チームが規定されているが、理事会等の企画準備などが主たる業務で、経理担当者のうち数名が兼任している。また経理業務の中に、寄付金の業務も加わり、人数的にも大きくなっていくため、実態に合わせて、経理・企画チームと1つに変更し、従来の企画業務プラス経理の業務を分掌としている。

広報渉外部内に今まで置いていた寄付担当については残さない想定のため、寄付の募集や企画に関する業務について、広報チームの分掌に加えている。

(主な意見)

＜岡本＞ より現状に合った内容に訂正したということか。

＜田中＞ そのとおり。

審議の結果、第 3 号議案は全会一致で可決承認された。

9 業務執行状況報告

岡本理事長から業務執行報告があった。第 25 回通常理事会以降、本日までに臨時理事会を 2 回、業務執行会議を計 4 回開催し、各種議題を協議したことが報告された。続いて佐藤副理事長、日野副理事長、浅野業務執行理事が業務執行状況をそれぞれ口頭報告した。

10 報告事項の経過概要と結果(敬称略)

(1) 寄付金報告 … 水口広報渉外部長

2 月度については、890 件、683 万円と、件数的には前月より大きく下がっているように見えるが、前年対比としてはプラス。単価も前月よりもプラスとなっている。今後、普及啓発を推進することによって、増加が見込まれる。

(2) 採取件数患者登録数報告 … 田中総務部長

2 月は、国内 BM が 60 件、PB が 30 件、国際が 0 件で、合計 90 件となっている。昨年度より少し件数減少しており、予算想定の 1030 件にちょうど届くかどうか、という状況。

国内の患者登録者数の推移に関しては、2 月末までで 1691 人となっており、昨年度とほぼ同程度の数字で推移。

(3) 調整医師新規申請の報告 … 関移植調整部長

新規登録の調整医師が 8 名、異動・辞退 4 名、合計で 1219 名。

(4) スワブトライアル 2.5 の実施について … 荒井総務部 TL

スワブ検査オンライン登録導入にあたり、トライアル 2.5 を現在予定している。

令和 6 年度において 200 検体でのトライアル 2 を実施し、オンライン登録にかかる運用面の確認をおこない、特に大きな問題となることはなかった。併せて、検査会社 2 社に検体を送り、相互の結果を比較したが、当初の想定を超える初回不一致が出た。この結果を、HLA の有識者や日本赤十字社の HLA 委員会に提示したところ、追加での精度検証を行った方がよいとの指示を受け、今回トライアル 2.5 の実施となった。

提示資料は大まかな骨子案であるが、実際の制度設計にあたっては、HLA の有識者や、臨床の先生方、現在ドナー登録の検査を行っている日本赤十字社等、各方面の皆様のご意見をいただいた上で行っていくこととして、現在調整中。

トライアル 2.5 は、基本的に検査精度検証に特化した形で実施する予定で、対象者については、JMDP の説明員などを対象に行いたいと考えている。

トライアル 2.5 のスケジュールが追加になったことにより、トライアル 3 並びに本格導入の予定について、トライアル 2.5 の進捗状況によっては、後倒しという可能性がある。